

## 第6学年国語科学習指導案

指導期間	平成16年8月31日～9月13日
指導学級	九戸村立江刺家小学校 第6学年 男子9名 女子8名 計17名
指導者	鷹嘴陽一（長期研修生）

- 1 単元名「読み方を広げよう」 光村図書『希望』6年上巻
- 2 単元について

### (1) 教材について

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」を中心教材とし、重ね読むために、同一作者の「月夜のけだもの」「よだかの星」を提示し、合計三作品から構成する。

どの作品も色彩が豊かで、独特の造語や擬態語がちりばめられている。また三作品すべて、動物が主人公であり、それぞれ独自のテーマをもっている。構造、人物像、テーマを観点とした読みを意図して構成したテキストである。

### (2) 児童について

これまでに文学的な文章の学習において、場面を区切り、場面ごとに登場人物の心情について読み取る学習をしてきた。叙述を手がかりに登場人物の心情を読むという行為は身に付いていると考えられる。さらに読む行為を広げるために、多様な読みの観点で作品を読みとおし、自分の読みに活用していくことが必要であると考えた。

### (3) 指導について

単元の指導過程を「読みの方法を知る段階」「読みを身に付ける段階」「自立して読む段階」の三段階とし、それぞれの段階でテキストを重ね読む活動を行い、読みを交流する活動をとおし、共有、修正する。

読みの方法を知る段階では、作品比較ワークシートを使い作品の傾向を探ることで共通点に気付かせ、その共通点を観点別に仲間分けをする活動の中で内容をつかませる。読みを身に付ける段階では、中心教材と作品の表現の仕組みを比較・対照させ、多様な観点（構造、人物像、テーマ）で読ませる。自立して読む段階では、前段階で身に付けた読みの観点（構造、人物像、テーマ）から一つ選択し、選択した観点で中心教材と作品を比較・対照させる。その後、選択した観点でグループにわかれ、読みや感想を交流させ、それぞれの考え方や感じ方に違いがあることに気付かせる。また、選択した観点を他の作品の読みに運用できるようにするために、1～5年生教科書の文学的な文章を与え、同じ観点の読みができる作品を類別させる。

## 3 単元の目標

多様な読みの観点を身に付けるために、複数の作品を比較・対照し、自分の読みに活用することができる。

4 単元の指導計画（全8時間）

段階	学習活動	時	重ね読む「読書的な読むこと」	指導上の留意点
読 み の 方 法 を 知 る	1 二つ作品をの共通点とらえ、観点ごとに整理する	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通点探し</li> <li>共通点の仲間分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品に対する評価を交流する中で様々な共通点があることを気付かせる</li> <li>仲間分けする中で観点を、構造、人物像、テーマなどに分類し、今後の読みの観点とすることを理解させる</li> </ul>
読 み を 身 に 付 け る	2 観点ごとにワークシートを活用して読み、ワークシートの記述を基に交流し、読みの共有、修正をする	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の比較・対照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの作品の登場人物の性格をとらえさせる</li> </ul>
		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造の比較・対照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対比で描かれている情景や人物をとらえワークシートに記入し、作品の構造をとらえさせる</li> </ul>
		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマの比較・対照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品のテーマを自分なりにとらえさせ、関係する人物と情景を書き出し、理由をまとめさせる</li> </ul>
自 立 し て 読 む	3 前段階の読みから観点を選擇して読み、グループごとに読みを交流する	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点を選擇して、中心教材と作品の比較・対照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を読み、中心教材と比較</li> <li>対照する観点（構造、人物像、テーマ）を各自に決めさせる</li> </ul>
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブックリスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年～5年までの教科書の文学的文章の教材を準備し、リスト作りをさせる</li> <li>同じ観点の読みができる作品を類別させる</li> </ul>

第1・2時

(1) 読みの方法を知る段階

ア 目標

「やまなし」と「月夜のけだもの」の共通点を探して読み、読みの観点をとらえ内容をつかむことができる

イ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入  10	1 二つの作品を読む目的を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む作品に興味をもたせるために、児童が知っている宮沢賢治の作品を提示し、同一作者の作品を読むことを伝える</li> <li>・活動に見とおしをもたせるために、作品比較レーダーチャートを提示し、読んだ後に書き込み、感じ方を交流することを伝える</li> </ul>
展 開  70	2 中心教材「やまなし」と作品「月夜のけだもの」を重ね読み、共通点を探す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品比較レーダーチャートに書き込み、自分なりに作品を評価する</li> <li>・レーダーチャートの傾向をペアで話し合う</li> <li>・二つの作品の内容をつかみ、共通点を探す</li> </ul> 3 共通点の仲間分けをし、読みの観点をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての作品を読むという抵抗感を少なくするため、作品「月夜のけだもの」は教師が読み聞かせ、中心教材やまなしは、教師の読み聞かせの後音読させる。</li> <li>・点数の基準を作るため、「やまなし」を点数を全員で決め、それと比較して「月夜のけだもの」点数を各自が考えるようにさせる</li> <li>・様々な共通点があることに気付かせるため、それぞれの項目の点数を付けた理由を交流させる</li> <li>・共通点をたくさん探すために、「やまなし」と「月夜のけだもの」を重ね読ませる</li> <li>・共通点を読みの観点に分類しやすくするため見つけた共通点は付箋紙に書かせ、話し合いによって移動させる</li> </ul>
終 末  10	4 読みの観点を確認し、次時からの学習活動に見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からの読みの観点とするために、仲間分けを整理し、テーマ、構造、人物像に分類にできることを理解させる</li> <li>・読みの観点に沿って詳しく読んでいくことを伝える</li> </ul>

第3時

(2) 読みを身に付ける段階

ア 目標

人物像を観点として二つの作品を読み、登場人物の性格を叙述から想像することができる

イ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入  10	1 二つの作品を読む目的を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの観点を明らかにさせるために、第1時の学習シートを基に、登場人物を観点とすることを確認する</li> <li>・登場人物を観点として読ませるために、叙述から人物の性格を考えていくことを伝える</li> </ul>
展 開  25	2 中心教材「やまなし」と作品「月夜のけだもの」の登場人物の性格を考える  3 登場人物マトリックスを作成する  4 作成した登場人物マトリックスを基に、人物像をペアで交流し、共有、修正する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の性格のとらえ方を確認するために登場人物を一人取り上げ練習させる</li> <li>・登場人物の性格をとらえるために、それぞれの作品から二人指定し、性格とそれが分かる行動や言葉をワークシートに書かせる</li> <li>・人物像を比較してとらえさせるために、座標に人物名を書いた付箋紙を貼り、マトリックスを作成させる</li> <li>・人物像について確実に読みイメージを膨らませるために、マトリックスにおける人物の位置を検討させ、その中で読みを交流させ共有、修正させる</li> </ul>
終 末  10	5 人物像を観点とした読みを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物像を観点とした読みをして、作品について新たに気付いたことや感想などについて記述させる</li> </ul>

第4時

(2) 読みを身に付ける段階

ア 目標

構造について二つの作品を比較・対照して読み、対比で描かれている情景や人物をとらえることができる

イ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入  10	1 二つの作品を読む目的を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの観点を明らかにさせるために、第1時の学習シートを基に構造（組み立て、表現）を観点とすることを確認する</li> <li>・表現を比較・対照させるために、「対比」の意味を理解させ、それぞれの作品で探しながら読むことを伝える</li> </ul>
展 開  25	2 中心教材「やまなし」と作品「月夜のけだもの」を構造を観点として重ね読む  <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの作品の組み立ての特徴をとらえる</li> <li>・「対比」に着目して読み、対比表現ワークシートに書き込む</li> </ul> 3 構造比較ワークシートについてペアで交流し、共有、修正する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時に出された二つの作品の始まり方と終わり方を提示し、特徴を考えさせる</li> <li>・「やまなし」の叙述から、五月と十二月で対比するものを記述させる</li> <li>・学習活動を理解させるために、対比する描写を例示し、一斉に活動させてから、個の活動に入らせる</li> <li>・五月、十二月それぞれのイメージに近い描写や人物を「月夜のけだもの」から探し、ワークシートに記述させる</li> <li>・確実に読み、イメージを膨らませるために、ペアでワークシートの記述を確かめさせ、修正や追加をさせる。</li> <li>・より多くの読みを交流させるために全員のイメージを提示し、共有、修正させる</li> </ul>
終 末  10	4 構造を観点とした読みを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造を観点とした読みをして、作品について新たに気付いたことや感想などについて記述させる</li> </ul>

第5時

(2) 読みを身に付ける段階

ア 目標

副題作りをとおして二つの作品を読み、テーマの共通性について考えることができる

イ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入  10	1 二つの作品を読む目的を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの観点を明らかにさせるために、第1時の学習シートを基に、テーマを観点とすることを確認する</li> <li>・それぞれの作品の「副題」を考え、読みの方法を知る段階で出された「平和に終わる」という共通点について検討することを伝える</li> </ul>
展 開  25	2 「やまなし」に副題を付ける  3 「月夜のけだもの」に副題を付ける  4 テーマの共通性について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の気持ち・態度の変化を手がかりに、内容を的確に表す副題を考えさせる</li> <li>・「やまなし」「月夜のけだもの」それぞれの副題をペア、全員で交流し、内容をよりよく表す副題について検討させる</li> <li>・テーマについて確実に読みイメージを膨らませるために、「平和に終わる」という共通点を手がかりに、それぞれの作品の「平和」について考えさせる。</li> </ul>
終 末  10	5 テーマを観点とした読みを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを観点とした読みから、作品について新たに気付いたことや感想などについて記述させる</li> </ul>

第6時

(3) 自立して読む段階

ア 目標

「やまなし」と「よだかの星」を観点を選択して読み、作品の特徴に気付くことができる

イ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5	1 作品 「よだかの星」を作品を 読む目的を知る	・ 前時までの読みとワークシートを選択し、新 たな作品「よだかの星」を読むことを伝える
展 開 30	2 教師の範読を聞き、作品比較レ ーダーチャートに書き込み、自分 なりに作品を評価する  3 読みの観点を選択し、それぞれ の観点で中心教材と作品 を比較 ・ 対照しながら読む  4 観点ごとにグループにわかれ、 交流し、読みの共有、修正をする	・ 読みの観点の選択させるために、範読を聞か せ「やまなし」と比較してリーダーチャート を作成させる  ・ これまでの読みを活用できるように、前段階 と同じように読み進められる学習シートを用 意する  ・ それぞれの観点で確実に読みイメージを膨ら ませるために、ワークシートの記述について 交流させ、共有、修正させる
終 末 10	5 それぞれの観点の読みを振り返 る	・ 作品について新たに気付いたことや感想など について記述させる

第7・8時

(3) 自立して読む段階

ア 目標

今までに学習した文学的な文章を讀みの観点に沿って類別し、ブックリストを作成することができる

イ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 今までに学習した文学的な文章の作品を讀む目的を知る	・ 1～5年生までに学習した、11作品を配布し、第6時に選択した観点で讀むことができる作品を類別することを伝える
5	ブックリストを作るための選択肢 ・おおきなかぶ    ・たぬきの糸車    ・スイミー    ・お手紙    ・えいっ、 ・スーホの白い馬    ・つり橋わたれ    ・一つの花    ・白いぼうし    ・ごんぎつね ・大造じいさんとガン	
展 開	2 観点に着目して作品を讀む	・ 前時に使った讀みの観点で讀み進められる作品を探し、ブックリストにタイトルとその理由を書き込ませる ・ 讀み終わり、リストを作った児童は、配布した以外の作品についてリストに加えさせる
70	3 観点ごとにグループにわかれ、ブックリストの共有、修正をする	・ 話し合いの後、個々のリストを修正させる
終 末	7 学習を振り返り感想を書く	・ 学習を振り返らせるために、ブックリストの作成で考えたことや今後の読書の仕方について記述させる
15		